2 学校評価計画 NO. 1

	重点指標		具体的取組	主担	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
	中高の特学が大学を一般では、一個では、中でのでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	1-1	大切にするとともに、時間や期限を守る学習	生徒指導教務	生徒、保護者ともに約7割以上が、挨拶の習慣が身に付いていると思っている。しかし、日常生活の中でしっかり挨拶できていない生徒は、まだまだ多い印象である。また、3点固定(起床時刻、学習開始時刻、就寝時刻)と、提出物や課題を期限内に提出する指導をしているが、一部の生徒が守れていない状況が見受けられ、継続的な指導を必要としている。学校内外において、ほとんどの生徒は錦中生としての自覚と誇りを持って行動している。	【成果指標】誰に対しても、大きな声で自分から気持ちの良い挨拶をする習慣が身に付いている。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、生徒指導 部で再検討	生徒対象アン ケートにより 評価
				学習 各教科		【成果指標】提出物や課題は、期限を意識して取り組んでいる。	提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、教務、学習、各教科で 再検討	・ 生徒対象アン ケートにより 評価
		1-2	健康な生活の維持向上に努めるととも に、部活動を通して心身ともに逞しい生 徒を育成する。	保健指導 部活動指 導	多くの生徒は、正しい生活習慣を身に付け健康管理に気を付けると ともに、部活動で多くのことを学び充実した学校生活を送っている。また、中学3年生の夏以降も、自らのあり方・生き方を考え、学習や部 活動に意識を高く持って取り組む生徒が見られる。しかし、不規則な 生活や、自分の健康に気を配れない生徒も一部見られる。	に気を配るとともに、部活動を通して多くのことを	規則正しい生活をするとともに部活動を通して心身ともに逞しく なってきている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、部活動担 当で再検討	・生徒対象アン ケートにより 評価
1		1 - 3	中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	各教科	英語科では、年間1回以上の英検受験を推奨しており、英語教室に 目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも上の 目標が達成できるように取り組んでいる。	【成果指標】英検の取得級に目標をもち、合格を 目指して、計画的に学習を進め目標級を取得し ている。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 B 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 C 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満	CまたはDの場合、教科で再 検討	英検の取得率により評価
		1-4	朝の全校読書に取り組み、読書の習慣 化を図る。	読書指導	読書に親しむ生徒は多い。習慣化とともに、本を読んだり、知識や教養を広めたりすることができるよう読書の質の向上に取り組むことが必要である。	【努力指標】読書が習慣化し、自立した読み手として目的に沿った読書に取り組んでいる。	読書が好きである。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満 朝読書に、集中して取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場 合、読書指導 で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		1-5	望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	特別活動 生徒指導	「学校へ行くのは楽しい」に肯定的な回答をした生徒の割合が9割、 教師による組織的な対応についても肯定的評価が100%である。毎 月の悩み・迷惑調査や年2回の生活アンケート、組織的な対応で生 徒の些細な変化も見逃さない取り組みが継続されている。	【努力指標】望ましい人間関係づくりを目指す特別活動を実践するとともに、日常的な生徒観察や定期的なアンケート等を通していじめを見逃さない学校づくりに取り組んでいる。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等をとおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	CまたはDの場合、管理職、 生徒指導で再 検討	教員対象アン ケートにより 評価
		1-6	生徒一人一人の良さを引き出し、認め、 伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高 い生徒」を育てる。	生徒指導 各教科担 任 各担任	「自分には良いところがある。」に肯定的な回答をした生徒の割合は 約7割を超えているが、前期に比べて後期はポイントが減少する傾向 にある。	【成果指標】生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進することで、生徒の自己有用感を高める指導をしている。	「自分には良いところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場 合、管理職、 生徒指導で再 検討	生徒対象アン ケートにより 評価
	学校研究のより一層の深 化・充実を図 るとともに、びたくなら る律的な、たたはら 通して、たけら 通して、おり確か かな学力を育成 する。	2-1	生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	研究•学習 各教科	与えられた課題に対しては粘り強く取り組む姿勢や態度は身に付いてきている。さらに学ぶ意欲を育む授業を目指していく必要がある。	【満足度指標】適切な指導内容や課題により、授業への満足度を高めることができている。	教材研究に取り組み、「授業が良くわかる」と回答する生徒を増やせている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で 再検討	生徒対象アンケートにより評価
2		2-2		研究 各教科	自分の考えを発表したり、グループ活動などで話し合う活動は大切であると95%以上の生徒が考えており、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると90%以上の生徒が答えている。各教科において、学習の目標や狙いを達成するために、効果的にグループやペアでの活動を取り入れてきていることが成果として現れている。	【満足度指標】話し合い、学び合い活動が充実し、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場 合、各教科で 再検討	・生徒対象アン ケートにより 評価
		2-3	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教えきる、学びきる指導を行う。	学習 各教科	生徒が主体的な学習を身に付けるために、課題の精選、フォーサイト (スケジュール帳)の活用に関する指導を行っている。生徒の状況を 踏まえて、今後の取り組みを継続していく必要がある。	【成果指標】全教科で、基礎・基本の力が確実に 定着するよう課題の出し方、評価方法を工夫し、 学力推移調査等の結果に繋がっている。	個に応じた指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、 下位層を減らすまたは増やさないことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で 再検討	教員対象アン ケート、学力 調査等により 評価
			論理的な思考力・表現力を育成するため、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	研究 各教科	「論理的思考力・表現力」を育成することを意識し、各教科で根拠や 筋道を明確にし、説明や論述させる指導が行われており、今後もさら に研究実践を重ねる必要がある。	【成果指標】全教科を通じて根拠や筋道を明確に して説明させるよう指導し、生徒の「論理的思考 力・表現力」を伸ばすことができている。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、 生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができていいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で 再検討	教員対象アン ケート、学力 調査等により 評価

2 学校評価計画 NO, 2

	重点指標		具体的取組	主担	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2	学校研究のよ	2-5	批判的思考力を育成するため、課題設 定、発問、学習形態等を工夫する。	研究 各教科	「批判的思考力」を育成することを意識し、各教科で課題設定、発問、学習形態等の工夫を重ねており、今後もさらに研究実践していく必要がある。	【成果指標】全教科を通じて多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判的思考力」を伸ばすことができている。	多面的・多角的に考察する言語活動の充実を図り、生徒の「批判 的思考力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で 再検討	教員対象アン ケート、学力 調査等により 評価
	り一層の深 化・充実に るとともに 通して、たなり強 通して、たれり強 などわたぞ な学力を育 する。	2-6	高校の学習内容を視野に入れてた発展 的課題に取り組むことで、目的意識や向 上心を高める。	コミュニ ケーション 教科 アドヴァンス 数学 各教科	6年間の系統性を意識して、国語科は高校と接続した評論や古典の 学習に、英語科は高校へのつなぎ教材に、数学科は高校の内容に、 それぞれ3年生の後半に取り組んでいる。社会科や理科において も、高校教員による授業などに取り組んでいる。	【努力指標】6年間の系統性を意識した指導を行うことで、生徒の学力が向上した。	6年間の系統性を踏まえ、それぞれの教科の指導を行っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で 再検討	教員対象アン ケート、学力 調査等により 評価
			自律的な学習習慣が身に付くよう指導・ 評価計画とテスト作成を工夫する。	研究•学習 各教科	家庭学習を計画的に進めている割合は約6割であり、学年進行で下がる傾向がある。中高一貫教育校に共通する課題でもあり、改善が必要である。	【努力指標】家庭学習時間の目標を設定し、予習・復習の大切さを理解するとともに、年間計画やテストを意識し見通しをもって学習を進めている。	計画的に学習を進め、週あたりの家庭学習時間の目標を達成している。 肯定的評価が A80%以上 B70%以上 C60%以上 D60%未満	CまたはDの場合、各学年で 再検討	生徒・保護 者・教員対象 アンケートに より評価
3		3-1	道徳の時間を要として、教育活動全体を 通じて、理想の実現や人を大切にする 心、より良い社会の実現を目指すなどの 道徳性を育くむ。	道徳教育 担当 各担任	「人を大切にする心が広がった」に肯定的な回答をした生徒の割合は9割に達している。道徳推進教師を中心に学年や学校全体での互見授業などの取り組みを進めている。	【満足度指標】道徳の時間を要として、教育活動 全体を通じて道徳教育を推進し、生徒が自分の 心の成長や人を大切にする心が深まったことを感 じている。	道徳の時間を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を推進 し、生徒が自己の成長や人を大切にする心が深まったことを感じ ている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、道徳担当 で再検討	
	道徳サアを育ない。 一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、		総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	総合的な学 習担当、 キャリア担 当	「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした生徒、「将来 の夢や目標に向かって努力している」の項目に肯定的な回答をした 生徒はともに7割を超える結果となっている。キャリア的行事に対して は9割の生徒が良い機会と捉えている。今後もキャリア教育の焦点化 や体系化を図りながら、中高連携の視点もさめ、自らのあり方・生き ナナネシュ状态とも変われている。	【成果指標】キャリア学習に関わる様々な取り組みを通して、視野を広げ自分の将来について深く考えるようになっている。	将来の夢や目標を持っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満 キャリア的行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、総合、キャリア教育担当 で再検討	生徒対象アンケートにより評価
	行動できる強 い心を持った 生徒を育成す る。				方を考える機会を充実させていく必要がある。		将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満		
		3-3	学級会活動や生徒会活動において、1 年生から段階的に話し合い活動や自治 的な活動に取り組ませ、自主的・実践的 な態度を育てる。	特別活動 担当	色々な活動を自分たちの手でやり遂げようとする意識が芽生え行動 にも表れている。今後はさらに生徒自身が判断したり考えたりして、 最後まで粘り強く行動できるようにしていく必要がある。	【努力指標】学級・学年の活動や生徒会・委員会 の活動を自分たちで企画や準備、運営をしようと 努力している。	色々な活動や取組に対して、自分で考えて自主的に最後まで粘り 強く取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、特別活動 担当で再検討	ケートにより
4	教職員の働き善 方や関本での意 に改革に、つい行 をとも営につい行 を公 を会 をの をな を を を を を を を を を を を を を を を を を		長時間勤務をやむなしとするこれまでの 働き方を見直し、限られた時間の中で教 職員の専門性を生かしつつ、教材研究・ 授業準備や子供たちと向き合う時間を確 保する。	教頭	年度当初に時間外勤務を減らしていくための方針を確認し、最終退 校時刻、月一回の定時退校日、部活動の休養日等を確認し18時退 校を目標として全職員で取り組んでいる。80時間以上は月平均3名 程度となり、縮小している。	【成果指標】時間外勤務時間の平均を前年度より 減少させ、時間外勤務時間は月80時間を超える 教職員ゼロを目指している。	時間外勤務時間月80時間超える教職員の数(月平均) A 0人 B 0~2人 C 2~4人 D 4人以上	CまたはDの場合、管理職で 再検討	勤務時間記 録表で評価
			中高一貫教育校に対する生徒及び保護 者の期待やニーズを分析し、より望まれ 教務 る学校づくりを目指す。	李 义5月	入学者の保護者の意識は高く、授業参観、学級、学年懇談会の参加率は非常に高い。 オープンキャンパス、学校説明会に参加する児童、保護者の数は、と 教務 もに200名を越えている。 今後も、さらに金沢錦丘中学校のよさを、県民にアピールしていく必 要がある。	ンパス、学校説明会の参加人数や適性検査の受	中高一貫教育校の現状の公開に、積極的に努めている。 肯定的評価が A90%以上 B85%以上 C80%以上 D80%未満	CまたはDの場 合、情宣の方 法を再検討	保護者対象 アンケートに より評価
	心して学べ、 信頼され、県 民からより選 ばれる学校づ						秋の学校説明会参加者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満	CまたはDの場合、会の在り方を再検討	※今年度は 秋の学校説 明会のみを 開催
	くりを行う。						適性検査の受験者数 A300人以上 B240人以上 C200人以上 D200人未満	CまたはDの場合、管理職、 教務で再検討	受験者数で